

ボランティア自販機
狛江の会社、全収益を緑化基金に

ボランティア自販機

狛江の会社、全収益を緑化基金に

狛江市岩戸北3丁目の「いちよう通り」沿いに、収益金をすべて市緑化基金に寄付する清涼飲料水の自動販売機が登場した。特殊めっき会社「千代田第一工業」が今夏、自社の敷地に設置した「ボランティア自販機」だ。売り上げは予想以上の好調で、「誰もが気軽に地域貢献できる」と評判は上々だ。

(佐藤清孝)

気軽に地域貢献

自販機はもとも、取引先の飲料メーカーの要請で設置。缶コーヒーや緑茶など30種類を120～150円で販売している。

「収益金で地域貢献できないか」。鈴木達雄会長(68)が市に相談し、緑化基金があることを知り、全額寄付を決めた。「本業でもつければいいですから」

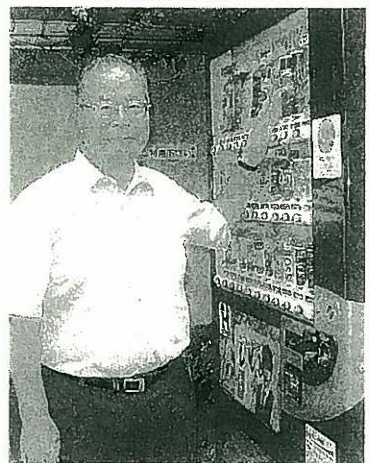
同基金は86年に発足。毎年市が積み立て、公園の緑化整備や木の剪定などに充てている。08年度末の残高は約5800万円。

自販機は7月、同社の事務棟玄関前に設置された。同社が整備して地域住民の憩いの場になっている「いちよう通りミニ公園」の一角で、水飲み場やテーブル、いすなどを設け、周囲を四季折々の草花で飾っている。「駅まで徒歩7、8分あるので、ちょっと一休みしたり花をながめたりする人が多い」と鈴木会長は話す。

約3週間に537本、8月も734本が売れた。寄付金は2カ月近くで計3万3046円になった。

自販機の商品の補充や代金回収、メンテナンスをしているのは「八洋」(本社・新宿区)。首都圏で約6万台の自販機を管理している。多摩営業所の担当者は「1カ月の平均は400本。500本以上も売れるのは珍しい」と驚いたという。鈴木会長は「どうせ飲料水を買うなら、気軽にボランティアとして協力してくれていましょう」。

八洋は94年にボランティア団体を創設し、自販機の設置先やメーカーと組んで1本につき計3円を募金。福祉財団やエイズ予防財団などに寄付しているが、「収益金をそっくり寄付する取り組みはまれではないか」という。



「ボランティア自動販売機」と鈴木達雄さん＝狛江市岩戸北3丁目

鈴木会長は「月5千円ほどの電気がかかるが、場所をちよつと貸すだけでみんなが社会参加できることに意味がある。こういう自販機が増えてもいい」。売り上げの報告がある週ごとに、公園で寄付額を開示している。